

2016年7月26日

SUPER GT 第4戦 GT500 クラス ADVAN レーシングタイヤ装着車がタイヤ無交換で優勝

横浜ゴム（株）の ADVAN レーシングタイヤを装着した KONDO RACING（監督：近藤真彦氏）の「フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R（ドライバー：佐々木大樹選手／柳田真孝選手）」が7月23から24日にスポーツランドSUGOで開催された SUPER GT 第4戦の GT500 クラスで優勝した。KONDO RACING とヨコハマタイヤは今年の第4戦（富士スピードウェイ）でも同クラス優勝を成し遂げている。

「フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R」は決勝レースでタイヤ無交換作戦を敢行。ドライバーとタイヤにとって過酷な戦いとなった中、ADVAN レーシングタイヤはしっかりと足元を支え勝利に大きく貢献した。柳田真孝選手は3周目に他車と接触して13番手に後退するも、30周目のピットイン後には6番手に浮上。タイヤ無交換でバトンを受け取った佐々木大樹選手は47周目にトップを奪取し、後続をしっかりブロックする安定した走りでもトップをキープする。終盤に激しいトップ争いが繰り広げられたが、アクシデントによる赤旗のため5周を残してレース終了となり悲願の勝利を手にした。予選での赤旗によりタイムアタックができない不運に見舞われた「WedsSport ADVAN RC F（ドライバー：関口雄飛選手／国本雄資選手）」は、14番手スタートからの驚異的な追い上げでレース中盤ではトップ争いを見せつつ5位でフィニッシュし、13戦連続入賞と記録を伸ばした。

GT300でもヨコハマタイヤ勢がレースを盛り上げた。ポールポジションスタートの「VivaC 86 MC」は一時後続に10秒近い差をつけて快走する。無線トラブルにより2位フィニッシュの悔しいレースとなったがランキングでトップに浮上した。予選9番手だった「マネバ ランボルギーニ GT3」はドライバー交換をぎりぎりまで遅らせ、さらにタイヤ無交換作戦により一時はトップに躍り出るが、終盤の混戦の中6位でフィニッシュ。予選21番手の「B-MAX NDDP GT-R」は16台を抜き去る驚異的な走りで5位入賞を果たした。



後続車を抑えトップを走る
「フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R」



GT500で優勝しガッツポーズを決める
柳田真孝選手（左）と佐々木大樹選手

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：坂本
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570